

上池さくらこども園 自己評価

	保育の中での学び、気づき、今後の見通し	保護者・職員との対話の中で心がけたこと・反省等	園務分掌(クラス・グループ・係等)運営・役割の中で考えたこと
職員の思い・考え	- それぞれの保育室で保育のカラーが出始め、子ども達の成長も認められる。 - 保育室の環境について、定期的な見直しを丁寧に行うとよい。 - 遊具・教具の扱いについて、遊び方を含め、職員の統一見解を見直すべく話し合いが必要と感じる - 子どもの発言やできるようになったこと・ふとした変化をキャッチしようと心掛けた。子どもから発せられるアイデアを認めることや子ども同士での問題解決が進むような対話・働きかけを深めていく必要を感じた。 - 発達の変化が大きい0歳児の保育室では、子どもたちの発達の変化に合わせ、活動を見直した。1年の後半には、十分に体を動かす時間と、机上遊びの時間を意識して作るようにした。自我や主張の表れが見られるようになると、個別に寄り添う必要を強く感じた。 - 保育者に余裕がない時に丁寧な関わりが疎かになったり子どもの気持ちを受け止める前に言葉で制したりすることがあった。活動の見通しを持ち、柔軟に対応することを念頭に保育を勧めたいと反省した。 - 成長のゆっくりな子どもでも一年を通して振り返るとその子のペースで明らかに成長していることに改めて気づかされた。月齢・年齢だけでなく個々の発達に応じた段階的な支援をしていけるよう心がけていきたい。	- グループ・学年の隔てなく気づいたことを伝えあい、子どもたちのことを共有していくことを心がけた。 - 保護者との対話の中で、保護者の伝えたいもしくは、聞きたい内容が何なのか汲み取り、受け止めることが大切と感じた。 - 保護者に対して、対話をする際には、簡潔にわかりやすく伝えることや、保護者が不安に思っている点に対してなるべく寄り添いながら必要な情報を話すように心がけた。 - 夏日課について保護者から質問を受けた際にすぐに答えることができないことがあり、他職員に確認をしてから対応することがあった。勝手に判断せずに確認することができる関係が職員間でできていて安心した。 - 年長担任が年度途中で体調不良のため退職するという状況の中で、主幹保育教諭が中心となり、職員全員で助け合い、卒園まで滞りなく子どもたちを見守ることができた。全職員に感謝。 - 保護者や職員との対話は、子どもの安心と成長に直結するため、信頼関係の構築が大切だと感じた。気持ちに寄り添う会話を心掛け、子どもの様子・気になる点などをきょうゆうすることで事故や見落としを防げると感じる	- 職員間で情報を共有しながら業務を進めることができたと感じる。 - 係の活動について、先の見通しを持って進めることができたと感じる - 日々の生活の中で、職員間の共通理解と連携が重要だと思う。クラス・グループの個性があることは否定しないが、守るべき約束などが、職員によって異なることは避ける必要がある。また、各保育室で考える子どもへの対応の仕方など職員間で共通理解したうえで、どの保育者も同じ対応ができるようにする必要がある。 - 係の仕事は、伝達を密にして進めていった。リーダーひとりが仕事を抱えるのではなく、係の人員で手分けをして進めることが大切である。 - リーダー会議を職員会議前に実施することで、共通理解を深め、職員間への伝達につながったように感じる。 - 保健や環境整備等で購入したのに対して備品台帳の記入を見直した。定着していくとよい - 自主研修への参加について、参加しない職員がいる。自主ではあるが、職員全員で保育を盛り上げるためにも学びの時間を作してほしい。 - 特定の子ども（支援が必要な）にグループ全体が振り回された1年であった。手のかかる子どもに職員が手を取られるため他の子の保育が疎かになるように感じられた。
まとめ（次年度への展望）	○ 各保育室の個性は大切にしつつ、基本的なルールや決めたことなどに対し、それぞれの保育者の対応で大きな偏りが見られた。それぞれの子どもに対し、どの保育者が対応してもその対応に差異が無いように保育者間の話し合いを密にし、クラス・グループの境なしに職員全員で目の前の子ども達の成長を見守れるよう話し合いを進めていく。 ○ 個別対応が必要な子に対し、日々できるようになったことを共有し喜び中で、次のステップへの挑戦や生活の意欲を後押しできるようにする。	○ どの職員も保護者との対話についてはよく考えて実施しようと努力していると感じた。 ○ 年が明けてからの年長職員のリタイアは、大変遺憾であったが、職員たちが協力し合って5歳児を見守り盛り上げて卒園まで支えてくれたに心強さを感じた。 ○ 対保護者、対職員、対子ども、それぞれの立場でどのように対応をすることがよいのかを職員一人ひとりがよく考えてから丁寧に対応することができるようになっていると感じた。	○ リーダー会議の月1回開催は、職員会議の前の問題点の洗い出しなどに役立った。次年度も実施していくとともに、以上児のグループ会議や未満児のクラス会議なども依光に実施して職員の共通理解や個別の子どもに対する対応方法の統一など必要な情報交換を進めていく。 ○ 各保育室内での密な情報交換が保育の内容の統一などに良い影響を与えていると感じる。それぞれの保育室はもちろん隣の保育室との連携も含めて職員みんなで見守る保育を進めていきたい。